

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

(9/1~9/7)

8 月報合併号

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

- ◇ 岐阜市保健所管内で RS ウイルス感染症が増加しています。
- ◇ 中濃保健所管内の小中学校でインフルエンザによる学級閉鎖がありました。→トピックス
- ◇ デング熱の国内感染例が増加しています。→トピックス

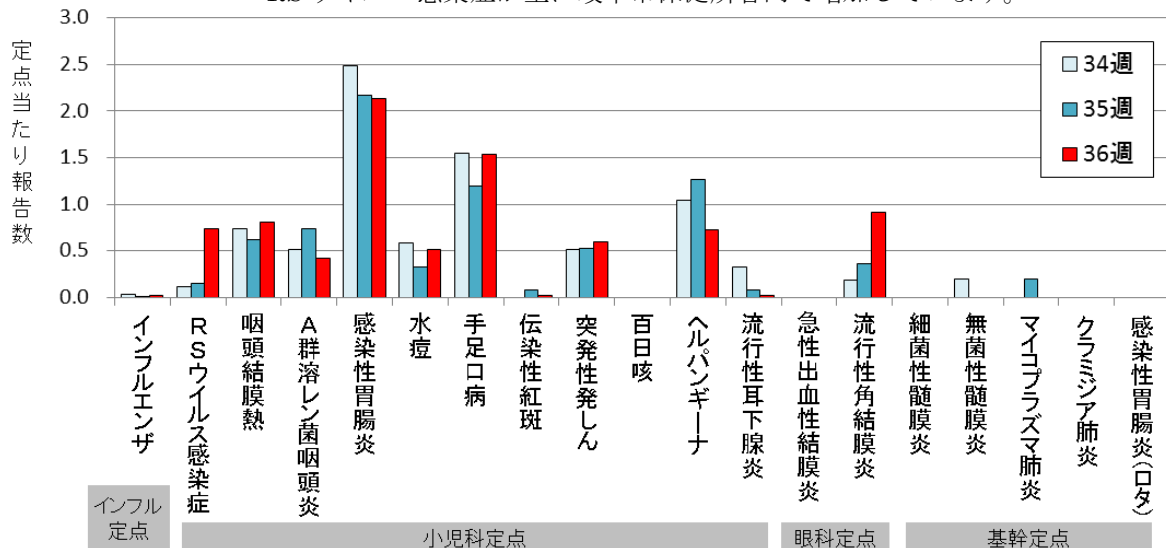
■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所名（定点当たり報告数）
警報レベル	咽頭結膜熱	恵那保健所（3.75）
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較

- ・ 恵那保健所管内で咽頭結膜熱の流行が続いています。
- ・ RS ウイルス感染症が主に岐阜市保健所管内で増加しています。



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 6 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：デング熱 1 例（感染地域：インドネシア）、レジオネラ症 1 例
- 5 類感染症：後天性免疫不全症候群 1 例（AIDS）

● 2014 年累計

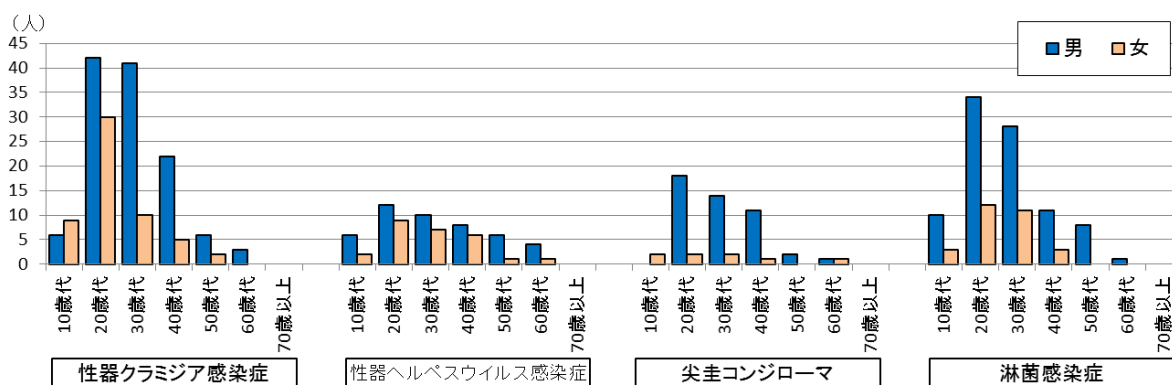
1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	299 例	
3 類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症 28 例
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 4 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	チクングニア熱	1 例	レジオネラ症 15 例
	つつが虫病	1 例	
5 類感染症	アメーバ赤痢	11 例	侵襲性肺炎球菌感染症 16 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 7 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	破傷風 1 例
	後天性免疫不全症候群	14 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	ジアルジア症	1 例	風しん 1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	麻疹 2 例

■月報告定点把握対象疾患 <8月>

●性感染症（STD定点：15か所）

疾患名	報告数（定点当たり）					
	8月	男	女	7月	6月	5月
性器クラミジア感染症	24 (1.60)	17	7	22 (1.47)	23 (1.53)	23 (1.53)
性器ヘルペスウイルス感染症	6 (0.40)	5	1	8 (0.53)	6 (0.40)	6 (0.40)
尖圭コンジローマ	7 (0.47)	6	1	11 (0.73)	7 (0.47)	8 (0.53)
淋菌感染症	19 (1.27)	15	4	11 (0.73)	17 (1.13)	11 (0.73)

年齢階級別報告数（2014年1月～8月累計）



●薬剤耐性菌感染症（基幹定点：5か所）

疾患名	8月報告数 (定点当たり)	年齢群等
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11 (2.20)	10歳未満 4例、10歳代 1例、30歳代 1例、60歳代 1例、70歳以上 4例
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1 (0.20)	10歳未満 1例
薬剤耐性緑膿菌感染症	なし	—
薬剤耐性アシネトバクター感染症	なし	—

■病原体検出情報速報

病原体定点等から提出された検体の病原体（遺伝子を含む）検索結果（8月14日～9月10日結果判明分）

臨床診断名	病原体名	検出数 (人)	検体採取年月
腸管出血性大腸菌感染症	腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1&2)	1	2014年8月
デング熱（疑い）	チクングニアウイルス	1	2014年8月

※デング熱の国内感染が報告された8月27日以降、当所において3例のデング熱疑い患者（海外渡航歴のある者を含む）の検体を検査しましたが、いずれもデングウイルスは検出されていません。

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報（IASR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■トピックス

《 Dengue 熱 》

◆ 国内感染例が増加しています

厚生労働省によると、Dengue 熱の国内感染例の報告は、9月10日までに全国で94件となっており、代々木公園周辺以外の場所で感染したと考えられる患者も3例報告されています。

◆ Dengue 熱とは

Dengue 熱は、Dengue ウイルス感染による急性の熱性感染症で、東南アジア、南アジア、中南米で多く発生しています。ウイルスは蚊によって媒介され、ウイルスを保有した蚊に吸血されることで感染し、人から人への直接感染はありません。主な媒介蚊は、日本には常在しないネッタイシマカですが、日本のほとんどの地域（青森県以南）で見られるヒトスジシマカも媒介します。

◆ 国内での感染の可能性

流行地でウイルスに感染した人（日本人帰国者または外国人旅行者）が日本国内で蚊に刺され、その蚊がたまたま他者を吸血した場合に感染する可能性があります。ただし、ヒトスジシマカの成虫は冬を越せないため、感染が起きたとしても限定された場所での一過性のものになると考えられています。

◆ 海外の流行地に渡航する際は感染を予防しましょう

海外の流行地で感染した Dengue 熱患者は、全国で年間 200 例前後報告されており、県内でも年間数例の報告があります。感染地域で多いのは、フィリピンやインドネシアなど東南アジアの国々です。

流行地に出かける際は、長袖・長ズボンを着用するなどして、蚊に刺されないように注意しましょう。

◆ 感染の不安があれば、早めの相談と医療機関の受診を

Dengue 熱に関して心配なことがある場合は、空港等の検疫所や最寄りの保健所にご相談ください。発熱などの症状が現れた場合は速やかに医療機関を受診してください。

関連リンク

厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever.html

国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/238-dengue-info.html>

検疫所 FORTH <http://www.forth.go.jp>

感染症法における取扱い

Dengue 熱は、感染症法において 4 類感染症全数把握対象疾患に定められており、患者を診断した医師は直ちに保健所に届け出なければなりません。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouho-u-kijun.html>（保健医療課 HP）

《 インフルエンザ 》

◆ 今シーズン初となる学級閉鎖が行われました

9月10日、美濃加茂市内の小学校でインフルエンザによる学級閉鎖の報告がありました。児童40人中13人に発熱などの症状があり、そのうち3名から AH3 亜型（A 香港型）のウイルスが検出されました。

県内では、例年11月中旬～12月初旬に、シーズン初発の学級閉鎖等が報告されており、9月の報告は珍しいものとなっています。

過去の学級閉鎖等の初発時期・施設等

シーズン	初発年月日	地域・施設
2013/14	2013年12月9日	中津川市内の幼稚園
2012/13	2012年12月10日	美濃市内の小学校
2011/12	2011年11月15日	恵那市内の幼稚園
2010/11	2010年11月20日	北方町内の小学校

現在のところ、他の学校などで集団発生の報告はありません。また、県内 87 のインフルエンザ定点医療機関からの第 36 週のインフルエンザ患者報告数は 2 人（定点当たり 0.02 人）と、昨年と同レベルで増加はみられませんが、手洗い、咳エチケットなど、身近にできるインフルエンザの予防に努めましょう。

感染症法における取扱い

インフルエンザは、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 4,800 か所（岐阜県 87 か所）のインフルエンザ定点から毎週報告がなされています。

届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouhou-kijun.html>（保健医療課 HP）

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>